



連町通信

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

発行
釧路市連合町内会

〒085-8505 釧路市黒金町7丁目5番地
釧路市役所内

電話 0154-31-4255
直通電話・Fax 0154-23-2101



＝第17回＝ 高齢化時代・健康寿命を考える(7) 再び認知症＝

ドクター磯部の 処方箋

処方箋

コロナは下火で、扱いがインフルエンザ同様になりましたが、先日コロナに罹りました。重度の風邪症状は2〜3日だったのですが、その後しばらく鼻く喉の症状は続きました。やはり今でも、コロナ菌の直撃を受けるとかかってしまうので、直撃は避けたいです。

さて、今回は、認知症の話です。ついに、新型の認知症治療薬が使えるようになりました。これまでの薬は神経伝達物質に作用して活発にする薬や、脳の調子を整える薬でしたが、新薬の作用は、これまでになかったもので、以前から期待されていたものです。ついに出来ました。

アルツハイマー型認知症（AD）の原因の一つは、脳にアミロイドベータ（Aβ）が蓄積してしまい神経細胞がやられて脳が委縮するというものです。Aβを減らすためには、これまでもお話してきましたように、①生活習慣病の予防、②適度な運動、③良い食事、④良い睡眠、⑤禁煙、⑥脳を鍛える、などがよいと考えられます。

新薬は脳のAβを減らすのです。Aβが蓄積しにくくなり、ADが進みに



釧路労災病院
脳神経外科部長
磯部正則

くくなる効果が期待されるということとです。認知症が治ってくれそうな作用ですが、そうではなく、進行の速度を抑制できそうとのこととです。

Aβだけ治しても今一つなのか、使用時期で差があるのかわかりません。いまのところは、軽度のADの方のみ適応です。複数の記憶検査、MRI検査の他、実際に脳にAβが蓄積しているかの検査を行い、軽度のADであることを診断します。新薬は注射剤で、2週間ごとに注射し、1年半続けます。副作用は定期的なMRI検査で確認しますが、脳の浮腫や出血などです。程度によっては、注射を中断します。治ると再開します。

場合によっては続けるのが大変かもしれません。記憶力低下が進まないようになりたいとう、ご本人の強い意志が必要そうです。

当院では、認知症外来、もの忘れ外来を掲げていませんが、通常の脳神経外科外来受診で始めています。長年認知症診療をしてきまして、今回の新薬はその作用から、治療効果を期待してまいります。

今後また状況をお伝えできればと思います。